

新しい広域ごみ処理施設の建設予定地に関する住民説明会要点録

日時 平成26年2月17日(月) 午後7時00分～午後8時35分

場所 武豊町民会館(ゆめたろうプラザ・響きホール)

出席者

管理者副管理者

市町名	氏名
半田市	榊原 純夫
常滑市	片岡 憲彦
南知多町	石黒 和彦
美浜町	山下 治夫
武豊町	初山 芳輝
半田市	藤本 哲史

武豊町

武豊町	厚生部	部長	鈴木 政司
	環境課	課長	木村 孝士
	担当職員4人		

事務局

知多南部広域環境組合	事務局長	小坂 和正
	事業課長	竹内 久訓
	専門監	浅川 邦治
担当職員5人		

参加者

一般参加者96人

1 開会 【開始 19:00】

(事務局 竹内事業課長)

2 あいさつ

管理者 半田市長 榊原純夫

副管理者 武豊町長 初山芳輝

3 職員紹介

知多南部広域環境組合

管理者 半田市長 榊原純夫

副管理者 常滑市長 片岡憲彦

副管理者 南知多町長 石黒和彦

副管理者 美浜町長 山下治夫

副管理者 武豊町長 初山芳輝

副管理者 半田市副市長 藤本哲史

武豊町

厚生部長 鈴木政司

環境課長 木村孝士

組合事務局長 小坂和正

事業課長 竹内久訓

事務局職員 浅川専門監

4 知多南部地区における「ごみ処理施設広域化計画」について

(1) ごみ処理施設広域化について

(2) 知多南部広域環境組合について

(3) ごみ処理広域化事業の経過と今後の予定について

(4) 公害防止条件等について

(5) その他

(事務局 小坂事務局長 資料により説明)

5 質疑応答 (一部抜粋要約)

(質問者1 女性)

2点質問とお願いがあるんです。武豊町に対しては、住民説明会がなぜこんなに遅れているのかをお聞きしたいです。美浜町は、去年の7月くらいに2回くらいは説明会が行われていて、その後資料によりますと、取下げもされていると聞いたんですけど、武豊町の住民に対しては、説明会が10月にしか行われていない。その中で、住民の意見はどこで反映されるのか、その辺りが知りたくて質問なんですけど、2市3町で説明会は、どのように行われたのか教えていただきたいです。

温水プールについてですが、予定地は海拔2メートルと聞いているが、プールをなぜ海拔2メートルの場所に造るのか。小中学校のプールが老朽化しているのを聞いたのですが、それに代わるものとして温水プールを建設するというのを聞いて、それはいいのかなと思ったのですが、今後バスに乗ってそのプールに通うということで、津波が4メートル来るというのを聞いているんです。津波というのが時速120キロ、東日本大震災では120キロで押し寄せてきたそうで、それに対する耐震性とか、その辺りはそんな耐震性を持たせたようなものが果たして出来るのか、そして子供たちを避難させるとしても、そのバスに乗せてという、車での手段しかないと思うんです。バスに乗せて点呼して、どうしても子供たちなので、もごもごして、武豊町は20分くらいで津波が来ると聞いているんですけど、その20分間で果たして子供たちが出来るのか、引率する先生方は少ないと思うんです。それに対しての子供の人数、その場合子供たちが津波に流されたとして、その責任の所在というのはどうなるんでしょうか質問です。

お願いですが、武豊町は防災にすごく力を入れている町だと思っているんです。最近ではコンサートを開いて、そこで防災のシュミレーションをしたりだとか、平成23年から大学の教授を呼んだり、日福の先生を呼んだり講演会を行ってくださってます。参加したんですけど、とてもためになる話だったんです。その先生たちの意見はどうなのか、先程説明がありました、点数を付けて評価としては、武豊町は90点だったと思うんですけど、それ以外で、先生たちの評価、東日本大震災を経験している私たちが果たしてそこに建設してもいいのか、それは今ここにいる人たちの考え、やはり子供たちなんです、今の大人の考えで造ったものに対して、子供が犠牲になってもいいのか、その辺りも考えてほしいので、その先生たちに意見を聞いてほしいのがお願いです。

(回答)

(組合事務局長)

1点目の住民説明会の件ですが、組合として開催したのは、この武豊町の建設予定地を選定してから、今日が第1回目でございます。過去には、半田市のクリーンセンターが、建設予定地で行ってまいりました。その時には、半田市は定期的に住民へは建設予定地を抱える市として、説明はいたしておりました。今回いろんな事情がございまして、建設予定地を再検討するという事になって、組合としては各市町に予定地の選出をお願いして、出てきたところが先程の4カ所ですが、実は4カ所の前には7カ所ございました。美浜町からも、一定の候補地が出てきましたが比較検討した場合に、その4カ所に絞って今回比較の検討を行ったわけですが、こういう説明会の場を持つというのは非常に大事な事と考えてますので、組合の立場としては、今後26年度から環境アセスメントが始まりますと、どのようなアセスメントをやっていくかということは、公開しなければならないものですから、それがホームページの公開であったり、広報での公開であったり、場合によっては説明会の開催といった形で情報をきちんと提供していきたいと考えてます。過去どうだったかと言われると、現実問題として組合は、本日が武豊町に移って、初めての地元のみなさんに対する建設予定地の住民説明会ということでございます。

(組合副管理者 初山武豊町長)

こうしたクリーンセンターが出来ることによって、エネルギーを有効活用して、環境にやさしい街づくりをしていこう、こういったスタンスを持っております。その1つの選択肢として、温水プールがあるでしょう。武豊町内に4小学校、2中学校あります。それぞれのプールがあって、老朽化してきております。これらを全部直してリニューアルしようとする、何千万、何億というお金が掛かります。こうしたクリーンセンターが特に問題ないよということであれば、余熱を活用した形で、温水プールというのを見据えてもいいんじゃないかということで、今検討に入っているということでございます。余熱を利用するということになれば、その付近にということになるわけですが、先程20分と言われましたが津波の到達時間が、武豊町は最悪の場合は6.6分でございます、想定されているのは、津波の高さは4メートルです。例えば、今、竜宮保育園の園児たちは、富貴の小学校まで歩いて津波の訓練をしています。10分から15分で移動できております。保育園児も危機管理意識を持ってやってくるということが1点と、これから設計に入っていきますと、あの高さが4メートルくらいだと思っておりますが、最悪の最悪の状態に想定した時に、ひたひたになるのかなということですので、そうした時に、例えば上げるとかといったことをこれ

から検討をしていくと、安全で安心な街づくり、町民の命を一番大切なことでありますので、そういった思いを持ちながら設計等に今からありきではありませんので、そういったことも含めて考えていくということで、ご理解をお願いしたいと思います。

(組合事務局長)

3点目、防災の専門家の意見を聞いて、施設整備を進めていってほしいという要望として、当然低い土地ですので、建設に関しては例えば盛土をして4メートルまでの高さには上げるという計画、そういう費用もみてありますけども、より安全な施設ということで、実施設計の段階になればそういう専門の方のご意見を聞くというのも1つの方法だと思っておりますので、貴重なご意見としてお伺いさせていただきます。

(質問者1 女性)

大川小学校がすごく問題になったと思うんです。地震が来た時に、はたして先生や子供たちが正確な判断ができて、その建物が耐震性があるといっても、逃げないといけない場合もありますよね、そういう時に対して、はたしてなぜ海の近くに建てるのか、そこを考えてほしいなと思ひまして、地震が来るというのは、プールをしている時に限らず、向かっている途中とかでもあると思うんですよ、バスに乗っている途中、その時にどうやって逃げたりするのか、武豊町もそうですけど、山の方もありますし山の方に建設するとか、そういうことも必要じゃないかと思ひます。責任の所在はどうなるのか、明確に言っていただかないと納得できないかなと思ひまして、建設した人、その時の町長になるのか、違う町長になってしまうのか、知多南部広域環境組合の選定されている方になるのか、子供たちの命を守るためにどのような手立てをしているのか、お金の問題も大事だと思うんですけど、命はどうなるのか知りたいんですけど、責任の所在をお願いします。

(回答)

(組合副管理者 初山武豊町長)

温水プールにつきましては、先程もお答えしましたが、臨海部の方に建設をしたらいかがかということで提案をさせていただき、いろいろと議論を重ねた結果、最有力地となりましたと、そのところの位置が決まります。決まって山の方へ余熱を持って行くことになったら大変な工事費になりますし、山の上へ持って行ったら、確実に100パーセント安全かといったら、そういうわけでもないと思ひますし、たまたま臨海部の方に、その施設があるということで、これから耐震に対してしっかりと検証し

て、これなら大丈夫ですよという形のものを、これから模索していくということでご理解をいただきたいと思います。

(質問者 2 男性)

どうして今まで説明会というものをやらなかったのか、それが一番の問題じゃないかと。プールの問題にしても、その時点でみんなで話し合うことができたと思う。三号地の埋立の件もそうですけど、既にある状態で説明会をやるという、どうして今までやらなかったのかということをお聞きしたい。

(回答)

(組合副管理者 初山武豊町長)

別に隠しておったとかということではなくて、この候補地を挙げるに際して私もいろいろ考えました。挙げるに際しては、町議会議員のみなさま方も今日お見えでございますが、みなさま方から賛同の意を得ました。それでもって、最終決断を昨年出させていただいたところでございます。これは、武豊町が手を挙げたから、そこに決まる決まったということで、説明会をやる必要は私はいらないと思います。それを話題として挙がっていったのが、先程説明がありましたように、4カ所挙がっていったわけでございます、最短の形で持ってきたのが、今日の説明会に至っているということでありまして、決して隠しておったとか黙っておったとかいうことではありませんし、加えまして地元が大足区ということで、そちらの方へは、3回ほど説明をさせていただいております。町全体ということの説明会ということは、いろいろ2市3町の調整がありますので、遅くなったと受け取られてもしかたがないかもしれませんが、私共としては最短のところ、今日全体の説明会の開催をさせていただいているということで、ご理解をいただきたいと思います。

(質問者 2 男性)

公害の問題というのはね、大足区だけではないと思う。

風によっても高さによっても違う。大足区だけではないと思う。そういうことを含めれば、大足区だけの説明ではなく、町全体でまずやるべきではないかと思いませんか。

（回答）

（組合副管理者 靱山武豊町長）

おっしゃられる通りでございます、それが今日の説明会だと私は理解しております。

（質問者2 男性）

決まった段階でやるのではなく、もっと前にやるべきじゃないかと思う。

（回答）

（組合副管理者 靱山武豊町長）

その点も先程来申し上げておりますように、2市3町でいろいろと調整を図ってまいりまして、点数付けとかメリットデメリット何点になるんだ、どうだこうだということをやってまいりまして、地元の説明会もやってまいりました。タイミングとして2市3町で、ではこれでいこうということで固まって、大急ぎで広報等段取りをしてこの段階になったということでございますので、ご理解をお願いしたいと思います。

（質問者2 男性）

美浜町では既に以前やられたと。

（回答）

（組合副管理者 山下美浜町長）

美浜町で、これに関する説明会をしたということをおっしゃられておりますけども、今日このメンバーの中の一員として、組合として最初の住民説明会でございますので、美浜町単独で行政がしたということは、私は存じ上げてございません。

（質問者1 女性）

定例会議録というのを見ているんですけど、インターネットに載っている、その8月の段階で美浜町の、美浜町ではなかったかもしれませんが、取下げをしている市町村があるということが書いてありまして、取下げの経緯について、取り下げるということで2回は説明会をしていると書いてあるんです、ここには。その段階で取下げをして、候補からはずれたと書いてあるんです。インターネットに載って

いるんですけど会議録が。

(回答)

(組合事務局長)

確認ですが組合のホームページの会議録ですね。

(質問者1 女性)

そうです第3回まである。

(回答)

(組合管理者 榊原半田市長)

2市3町で作っている組合は定期的にやってみて、先程ご質問の中にありました、7カ所を4カ所に絞るためのその3カ所についてはいろんな諸事情がありまして、時間的なことだとか地権者の方が個人的な方が何名もおられたとか、そういうことがあってその3カ所は候補地として残すことは適当ではないということで、諸事情の中で7カ所の中から4カ所に絞らせていただいたということは、その記録に残っているものだというふうに理解しております。

(質問者2 男性)

どうして今こういう説明会をやるのか。そこを教えてください。

(回答)

(組合管理者 榊原半田市長)

2市3町広域的な区域の1カ所で処理するための施設を造るということでございますので、当然候補地となっておられる武豊町にきちんと説明をすることが必要であると判断させていただいて、説明会を開催させていただいております。

(質問者2 男性)

説明会というのはどういう意味合いを持つのか。話しておけばいいだろうと、ただそれだけのことですか。

（回答）

（組合管理者 榊原半田市長）

そういうわけではございませんので、全体の事業計画がこういう概要になっておりまして、先程も説明させていただきましたが、例えば公害防止などの観点も、ここまですべて細かくやらさせていただきますとか、そういったことを説明させていただきます、ご理解いただくための場であるというふうに理解をいたしております。

（質問者 4 男性）

大足地区の説明会にも出たのですが、説明会の時の話ですと武豊町に決まったわけではないと、あくまでも候補地として手を挙げただけであるということ、これから各市町村のいろんな候補地と比較検討してとりあえず予定地を決めると、それからしかるべき説明会があるという話で、大足地区で出た話で評価項目いろいろありますね、そこで一番問題になったのが三陸の災害ではないが災害時のリスクですね、それを一番心配されてた。どうして沿岸部で造るのか。3メートル、4メートルの津波が来た時、いくら対策をするといったって、初めて今回の三陸のように想定外のことでこれからは済まされない。しかるべき対策を採った上でやるということになると、どうしても高台というのが優先的のなるかと思うんです。当時の大足地区の説明会の時の大部分の意見ですと、山間部の方にやったほうがいいんじゃないかというようなことで、私はみなさんの意見だというふうに、私は認識したもんですから、どうしてこれは選定基準の中にこれが入ってないのか、その辺のことをお聞きしたいのですが。90点という点数が出るんですが、その辺の配点基準、国か何かでちゃんとした基準があつてこの点数は決めているんですか。一番私が心配しているのはリスクの問題、その辺のところの評価項目の中に1つも入ってない。今一番みなさんが心配しているのが、評価項目だと思うんです。環境基準云々というのは、これから技術が進歩します。10年先の焼却炉なんか排ガスなんか心配しなくても大丈夫だと思うんです。一番心配なのは万が一の災害、技術が人のミスで焼却炉そのものが不具合が起きたとしても、その辺のところは技術的なものでいくらでもカバーできるんですけど、どうしてもないのが津波が来た場合、福島原発でもそうですが、想定外になった時どうしようもなくなってしまう。大足地区にそういうところに津波が来た場合、あの辺沿道全部がごみで埋まってしまうのではないかと、非常に心配してました。その辺の所をもう一度、場所の再検討ということをお聞きしたい。愛知県の最終処分場に津波が来たらどうなるのか、中部電力の所にトランスのPCBが置き場所になっている。大足の沿線が全部ごみで埋まってしまう。この焼却場が災害拠点場というか

避難所になるというような話をおっしゃいましたが、逆にそれが一番危ない施設のな
るのではないかなという気もします。どういうことになったかお聞きしたいです。
最初の時に半田市で決めていたのですが、ダイオキシンの問題が出たという話だっ
たんですけど、どうしてダイオキシンが出たんですか。ごみ焼却していた過程でダイ
オキシンが出たのか、別の問題があってダイオキシンがそこにあったのかというこ
とをお聞きしたい。もしごみ焼却の問題でダイオキシンが出たとすると、今回の武
豊町でも同じような問題がまた発生するのではないかなというように疑問に思いま
したので、その辺のところもお聞きしたいです。

(回答)

(組合管理者 榊原半田市長)

半田市の最初の候補地の地下からダイオキシン類がということに、お答えさせて
いただきます。半田市が当初建設候補地としておったのが、最終処分場の跡地でござ
います。当初、そういったものが埋まっておったということに起因するものだという
ふうに理解しております。私共が、以前温水プールを建設させていただいた時には、
今の国の基準がいろいろ変わってきておりますが、そういったものに関しての細
かなチェックまで当初はない時期でございましたので、私共が温水プールを造る
時期は特に問題なく建設ができました。その後、土壌汚染対策法だとかいろいろ
日本中で高層ビルなどを造る時に、地中からいろんなものが出てくること
が問題になりまして、基準が厳しくなると、その基準に基づいて環境影響
評価の調査をさせていただきました。新しい構造物を造ると、そういったものが
地下水に影響を及ぼす可能性が高いということで、新しい物をそこに造る
には、きちんと周辺に漏出しないような対策が必要だということで、それ
には敷地全体をコンクリートで覆うような工事が必要だということでござ
いまして、極めて多額の費用を要することが分かりまして、それと他の候補地
を比べて比較検討しようということとさせていただきます。現在の武豊町の
候補地の件でございますが、冒頭申し上げましたように、私共の施設も武豊
町の常武の施設もかなり年数が経っておることから、ある程度早い時期
までに新しいものを造る必要がございます。時間の範囲内で費用対効果
などを考えますと、例えば地権者が入り組んでおって、簡単には理解が
得られないところでは無理だろうというような諸条件がありましたので、
現実問題として、これから新しい建設候補地として選定していくに
ふさわしいものの中で比較検討する必要があるかということの中で、
今回武豊町が手を挙げられたところが、候補地となったということでござ
いまして、おっしゃること、非常にごもつともだと思いますが、
そういった諸条件の中で候補地を絞らせていただいたことの結果が、
今日の説明会になっているということでございますので、

それも合せてご理解いただきたいと思います。

(組合事務局長)

質問の中に環境面40点、用地買収面20点、経済面40点。今回この評価点により評価いたしました。これが国の基準等に基づくものかということでございますが、こちらについてはこの組合独自でこの地域性に合った配点ということで、組合内部で決定をしてこの配点で評価をしたものでございます。津波等のリスクの配点部分がないというご質問ですが、中山の土地は3.2メートルです。こちらの津波高が4メートル想定されているということで、この費用面において、その土地の整備関連費ということで、その土地を4メートルまでは上げて嵩上げして、4メートルの津波が来ても施設には水が入らないという設定の費用を見て評価をしています。津波によって大足地区が道路がごみだらけになるんじゃないかということですが、当然そういうことにならないように、ピットであったり施設からはごみを出さないという施策は取った設計を計画して、地元にご迷惑のかからないような施設の建設を目指していくものと考えています。

(質問者4 男性)

今のお話ですと4メートルということでもいいんですけど、先程の東北の地震のことになってしまいうんですけど、あれだけ津波対策ということで相当大きな防潮堤など造ってましたね、あれでも尚且つ想定外の津波でああいうふうになったんですよ。今あの辺の公共施設はみんな山側へ造ろうということや、もしくは地区全体を山へ移そうというようなことで、大掛かりな計画を立ててますわね。災害に対して、相当突っ込んだ想定外が起こりうった時にはどうするかというようなことまで考えての対策だと思うんですけどね。今の話ですと、武豊町の場合ですと、最大で4メートルの津波が来た時に、これだから大丈夫だというようなお話なんですけどね、あくまで理論値というか計算値だけであって、東海のもが3つか4つ重なって、それこそ想定外の津波になった場合ですね、建物がもつのかそれ以上の津波が来てどうなるのかということを考えた場合、もう少し違うところがあったんじゃないかなというような気がする。武豊町でいうと名古屋市の野外活動センターありましたですよ、中止になりましたよね、ああいうようなところでも、幾らでも今からでも間に合うんじゃないかなと言うような気がします。期間的にも、耐用年数が3.0年で他の施設が老朽化しているから早めにとというような話があったんですが、そうでしたら逆に言うと環境アセスメント武豊町1カ所ではなくて、もう1カ所くらいやっても万が一武豊町でこれ

で環境アセスメント引っかけた場合、もう1つのところの他の場所での環境アセスメントをやったところで代替えができるのではないかとか、そういうようなことの考えはないわけですか。その辺のところをお聞かせ願いたいんですけども。

(回答)

(組合事務局長)

今のご質問ですが、アセスメント2カ所でやる、理想かもしれないですけど非常に困難だと考えてます。候補地を2つ挙げて並行してやっていくことは、非常に不効率的な部分もございますし、アセスメントですので100パーセントここで出来るという保証はありませんので、そういう場合も考えられますけど、現在のスケジュールとしては、武豊町の建設予定地でアセスメントを進めていきたいとそういう計画を持っています。4メートルは国の発表した既定の値ですので、想定外のことが起こるかもしれないということもございますが、そうすると何を根拠に施設を建設していくかという点もございます。当然焼却施設というものは非常に強固な建物になりますので、たとえ4メートル以上が来ても、そこには建物が流されることのないような基準を持って、建設は当然していくべきものと考えてます。先程も申し上げたとおり、既存の施設が老朽化が進んでいるということ、老朽化が進んできますとその修繕費、延命対策に非常に大きな費用が掛かってくるということ、施設としては早急に整備をしていきたいということ、ごみはごみゼロになれば一番いいんですけど、現時点では焼却施設を建設して焼却しながら減量に努めていくという方策を取っているということで、ごみ処理は行政の重要な責務ですので、これを放棄することはできませんのできちんとしたごみ処理をしながら、住民のみなさんの協力を得ながらごみを減量してなるべく少なくしていく、そういう施策を行っていきたいと考えております。

(質問者5 女性)

スライドの6番のところ質問したいと思うんですけども、現在の処理能力でいくと412.5トンあると書いてありますね、それを今度新しい炉を造る時に何トンの計画でしょうか。トン数の割り出した根拠、どういうふうな展望でそのトン数を出したかというところを説明していただきたいと思います。

(回答)

(組合事務局長)

6ページの現有施設、3施設ございます。能力的には412.5トン、現時点それ

だけの能力は多分ないですけれども、半田市クリーンセンター敷地で順調にそこで進めば平成29年に供用開始ができる予定でございました。その時に施設整備計画としては、283トンの処理規模の施設を建設予定でございました。その283トンはどこから出てくるかという、燃やさないと処理できないごみ量を、2市3町分を合計した処理量から施設規模は算定しております。減量が進んで各市町のごみの減量であったり、リサイクル、分別が進んで順調にごみ量が減ってくれば、平成29年には283トン規模の施設で、そのごみを処理することができるという算定でございます。建設予定地が今回変更になるということで、施設の整備計画は5年ほど延長いたします。そうすると34年施設供用開始のごみ量というものをまた今後推測をしなければならぬ。規模的にはごみは減ってますので、減らしていく努力を行政としてもみなさんをお願いしてますし、みなさんのご協力もありますのでごみは減っていく傾向です。283トン規模よりももう少し小さい規模の施設で、ごみ処理は賄えると予定しております。

(質問者5 女性)

常滑市の方で、24年に常滑市はごみの袋を有料化に踏み込んでいきました。それに合わせて減量化、資源化にも取り組んでいる現在です。私は市民グループの方でそういうことに関わっているんですが、ごみはゼロにはなりません。ならないけれども限りある資源とか環境を子供たちにいい環境を残そうということにおいては、私たちがやることはいっぱいあるという気がして小さなことをこつこつという感じで取り組んでいるんですけども、2市3町においてそういう取り組みの展望といいますかね、そういうのは組合としてどのような展望をもっているのか、足並みを揃えてやっていくべきだと思いますので、そこら辺をちょっとお尋ねしたいです。

(回答)

(組合管理者 榊原半田市長)

今日の午前中もですね、2市3町のこの組合の議会がございまして、その組合の議会の中でも議員からご質問がございました。今それぞれ自治体によって若干ごみの収集方法だとか集団回収などがありまして取り扱いが変わってますが、最終的に全く同じところまでやれるか分かりませんが、今おっしゃったごみをできるだけ減らして使えるものは使っていくという考え方大事だと思っておりますので、2市3町のそれぞれの個別の市町に任せるのではなくて、せっかくこの2市3町の一部事務組合というのができましたので、そこがみんなをけん引していくような形でですね、広域的にご

みの減量化を取り組んでまいりたい、地球にやさしい社会を実現するための枠組みを
取り組んでいきたいと考えていますので、ご指摘の分も踏まえてさらに炉が小さくて
も済むような枠組みの中で進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解ご協力を
今後ともよろしくお願い致します。

(質問者 5 女性)

是非その言葉だけではなくて具体的にそういう本当にどうするのかというところを
目に見える形で示していただきたいと思えます。

(回答)

(組合管理者 榊原半田市長)

そういったことも含めて、どんどん情報発信をさせていただきたいと思えますのでよ
ろしくお願いいたします。

(質問者 6 男性)

今の炉の容量の件なんですけど、この新しい炉が2.0年経ったらどのくらいの能力に
なると考えておられますか。

(回答)

(組合事務局長)

今回新しく整備した炉が2.0年後どうかは、ここでは分かりません。

(質問者 6 男性)

今、例えば(約)400何トンの処理量(規模)があると、それは今現在どれくら
いの処理に減っていると考えられているんですか。

(回答)

(組合事務局長)

具体的な数字をここで持ってないものですからお答えできません。

(質問者 6 男性)

僕が言いたいのは、ぎりぎりな能力でやっていて例えば20年過ぎてもっと使いたいなど、その時に処理能力が減っては困るからもう少し容量が増やした物の方がいいんじゃないかという質問ですがどうでしょうか。

(回答)

(組合事務局長)

平成29年で283トンの炉と申し上げましたが、実はこの炉の計算には、ごみ量を基に、その稼働日数から点検のために必要な日数を除いたりして、全くぎりぎり365日毎日これだけを燃やさないにごみが処理できないという数字ではないです。ある程度点検の日数、休みの日数を勘案して処理能力が決定されてます。ごみ量というのは、今の傾向ですと毎年減少傾向にあります。みなさん減らす努力をされてますので、逆に言えば炉の設定時が一番大きい状態、平成29年度283トンの炉を造れば30年、31年、32年と年の経過と共にごみ量は減らす努力を組合としては致していきますので、283トンがずっと20年間続く、それだけのごみ量が出るとはそういうふうにはしない方向で施策を打っていきたいと考えています。

(質問者 6 男性)

あと要望なんですけど、先程津波の件があったんですけど、もし何かの時に止まったという話があると、毎日約300トンくらいのごみが滞留するわけですよね、その場合の対策というのは何か考えていますか。

(回答)

(組合事務局長)

愛知県の中で災害応援協定というものを結んでいます。これはつい最近ですが、愛知県の全施設が災害時には助け合うという協定を結びまして、万が一この沿岸部の炉が被害が無くても操業ができない状態になれば、その山間部の方に応援でごみを運んで処理してもらおうという協定を、愛知県中の施設は結んでいる状態です。そういったところの助けを借りながらその災害時は乗り切っていきたいと考えてます。

(質問者 6 男性)

最後にお問い合わせなんですけど、いくら新しい施設ができて人間が管理しているもの

です。例えばさつきダイオキシンとかいろいろ公害協定とか言われていたましたが人間が管理するという話でそういうヒューマンエラーというような話が出てくるんじゃないかなと心配しております。そういうところも十分に考えて施設を建設していただきたいなと思いますので一つよろしくをお願いします。

(回答)

(組合事務局長)

貴重なご意見ありがとうございました。

(質問者7 女性)

2日ほど前に、ここの管理者で知多南部広域環境組合の管理者である半田市長のところに質問状を出しに行きました。私は、どこかにごみ処理場は造らなくては行けないので、このことについて反対する気持ちは毛頭ございません。やはり安心、安全であること、みなさまの命が危険にさらされないこと、これが私が一番だと思って、今日は質問するつもりはなかったんですけども質問させていただきます。先程説明会の話がありました。私のところでも説明会を何度も開いてほしいと、なぜ私が開いてほしいと言ったのは、最初の計画では380トンくらいの大きさの炉を造るということで、ちょっと大きいんじゃないかなという懸念がありました。愛知県が2割かな、それで国が3割くらい減量するという話でしたので、常滑市に戻りまして、うちは何割引けるんですかということをお聞きしましたら、まだそのことの計画はありませんということでしたので、じゃあまだ少なくなる小さくなる可能性があるんじゃないか、そのためには市民の方たちにこのことを知らせ、少しでも減量を早くスタートしたいと思ったからです。しかしその時の答弁はいつも、半田市にできてうちにできるわけじゃありませんという言い方でした。しかし実はみなさんご存知ですか。この施設は330億円ほどかかるということ、建設に165億円、維持管理に16.2億円かかるんです。そして負担金としては、各々それぞれかなりの億の単位を払わなければいけない、そんな事業にかかわらず、私たちの税金を使っているにもかかわらず、何1つ説明会がないというのが本当に私は不思議でした。ようやくうちもお声が掛かりまして、ここの武豊町でやっていただくのに参加したらどうかということなんですけれども、一番心配することは、今度の武豊町の場所です。実は半田を決めた時、先程半田市長が説明ありましたが、実は私も組合議会に入っているわけでもない一人会派でやっておりますので、情報がほとんど入りませんでした。その中専門家に聞きました。そしたら最終処分場、形質変更、跡地形質変更ガイドラインというのがあるから見な

さい、でそれを見ました。そしたらそれは国が平成16年に93ページにも及ぶガイドラインを作っていたわけです。半田に決まったのが平成19年です。その以前にそのガイドラインはあったわけです。半田市もそれはご存じだと思います。その後、鉛が出た時になぜこのガイドラインが問題にならなかったかということ、これは私すごく疑問で、これは1つお答えしていただきたいところです。それを何年も24年にダイオキシンが出たわけですので、もう1つ今度の武豊町の場所、本来、普通自分の家の土地を買う時、そこに家を建てるんでしたら、やはりその土壌が心配になりますので、本当にそこが心配ないかということで調査してから買うか、もし出た場合は売り手にお金を支払ってもらおうという方法で普通はやると思うんです。今回の方法、決めてから環境アセスをして、それからなんとかするという方法は、ちょっと私にとっては、すごく危険な結局前の半田市と同じ方法ではないかなというふうに思いますけども、その辺2つ目の質問であります。その2つお答えください。

(回答)

(組合事務局長)

実は鉛が土壌の調査で出た時、その対応についてはガイドラインに沿った対応で処分をするということで対応しました。今回のダイオキシン対策と言ってしまうと大きいのですが、半田市は最終処分場跡地ですので、その保有水から出たダイオキシンを地下水に影響を与えないがために行う対策費用、最終処分場を全てコンクリートで囲って、そこにお椀を造ってしまう、そういった対策は何十億という費用が掛かるというものでした。鉛が検出された時は、その鉛を取り除いて処分をするという費用という面で見てもどうかということはあるんですが、十分対応できる金額でございました。当然最終処分場のガイドラインはありますので、そのガイドラインに沿った対応を最終処分場の跡地に何かを建設する時は県に届け出て、それに沿った対応をするということですので、鉛が出た時は、その対応は費用的には事業を続けると判断できる額であった。今回の保有水からダイオキシンが出たということについては、それが非常に大きな額でありましたので、そこで続けるか他の候補地を探すかという選択になったということでございます。今回の武豊町の土地の土壌の状況を心配されていることで、根本的に半田の予定地と武豊の予定地では最終処分場跡地である土地であった半田と、通常の港湾の埋立地であった土地である武豊、対策にとっては大きな違いがございます。土壌汚染対策法に基づきまして、今回の土地は何か起こればそれに対応するということですので、例えば有害なものが出ればそれは対策を取らなければなりません。最終処分場跡地から出たというケースと比べると対策としては取りやすい土地でございます。原因がどこにあるかということ、現在中山製鋼からいただいている資料

では事業活動によって有害な物質を出したという経緯はありません。国や県に届け出の義務のあるような事業活動はしてないということで、聞き取りの段階ではそういうものは出ないと想定しています。今後、それは売買ですので売買交渉であったり契約の中で、かし担保責任的なことは、今後売買契約交渉の中ではっきりさせて、不明確な状態での売買というのは当然組合としても公共の団体が土地を買収するということですので、不明確な状態で売買をするということは考えてないです。これから調査研究していかなければならないところがございます。

(組合副管理者 榑山武豊町長)

私の知り得る限りでございますが、昭和34年に伊勢湾台風がありました。この時の状況を青木元町長に聞きました。鉄骨が建ち始めて揺れていたということです。当時の話を県のOBにも聞きました。中山製鋼に働いている方にも聞きました。鉄鋼関係の方々にも確認をしました。全く何も無い土地ではないと思いますが、別に一般のごみが入っておった土地ではないということですということを補足させていただきました。

(質問者8 男性)

ここにいらっしゃる方は、ほとんど町をよくしようということではいらっしゃるかと、私は推測して話を聞いております。ごみをですね、自分たちの力でいかに少なくしようかという運動を私はしております。5市5町はですね私の指導であることを可能になっているんです。市民のみなさんがですねその気になってごみを減量して、炉が少なくて済むというようにですねお考えのように組合がおっしゃっています。確かにその通りです。今ここに出席しているみなさんがその気になってほしいと、追及するのではなくて俺たちに何ができるんだということをですね、ここで確認しあう場であってほしいなど、教育の場がですね、つくってくださるとおっしゃっていましたね。市民がこういった形で、このごみの減量に関わることができるかということをですねみんな考える場がここに1つくらいあってもいいんじゃないかと提案です。

(回答)

(組合管理者 榑原半田市長)

施設建設にあたっては、そのような場にできるよう取り組んでまいりたいと思いますのでよろしくお願い致します。ご意見ありがとうございました。

（組合事務局事業課長）

予定の時間も過ぎましたので、これをもちまして新しい広域ごみ処理施設の建設予定地に関する住民説明会を閉会したいと思います。本日お配りした資料のあらましの下に当組合の電話番号が書いてあります。メールのアドレスもホームページの中から検索できますので、そちらにご意見等ございましたら何なりとご連絡いただければご回答させていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。本日は長時間にわたりありがとうございました。気を付けてお帰りいただきますようお願いいたします。

【終了 20:35】